

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol.17, No.1, 通巻80号 2013.6.15 発行

目次

ご挨拶.....	1	身近な自然シリーズ.....	7~8
活動報告.....	2~5	情報クリップ.....	8
わたしの選ぶ“この一冊”.....	6	行事案内.....	8~10

皆さまの参加をお待ちしております

会長 鈴木 智明

今年も新年度が始まりました。役員も新たなメンバーも加わり、がんばって行きますので、1年間よろしくお願いします。

昨年度を振り返りますと、まず46回（中止が2回）の講座を実施いたしました。参加人数は延2093人とその前の年の1377名を大きく上回っています。講座は友の会会員が企画し、博物館のご協力・ご支援により実施される物です。多くの講座を企画し、自然とのふれあいの場を提供していただいた皆さまや博物館の学芸員や職員の皆さまに感謝いたします。昨年度は神奈川県立の財政状況が厳しいことから、県有施設の見直しが行われ、生命の星・地球博物館もその対象となりました。友の会の規約にある”博物館を広く活用し博物館活動を支援する”ひとつとして、このような講座への参加も有効であるのではと考えております。今年度も40の講座を予定しておりますので、積極的なご参加をお願いいたします。

また講座以外にも活動グループとして、植物グループや地学グループなどに加え、新たに菌事勉強会が加わり、会員相互の様々な交流の場が増えました。私個人としても学校との連携について、何か出来ないか、今年度検討しようと思っています。

このように友の会は、企画や運営に携わっていたり、賛助会員として経費面の支援を頂くなど会員の皆さまの活動や支援により運営されています。経費面の支援も講座実施の際に係る経費が増えていることから、大変ありがたいものです。今後とも継続してご協力いただくとともに、友の会活動の更なる発展に資するアイデアやご意見等ございましたら、ツイッター（@kpmtomo）やメール（kpmtomo@ybb.ne.jp）などにご連絡いただければ幸いです。友の会の様々な活動への皆さまの参加をお待ちしております。



博物館の新たな出発

館長 斎藤 靖二

生命の星・地球博物館にも、年度がかわってまた新しいスタッフたちが加わりました。これまでと同じように活動しておりますので、顔を見合わせましたらどうぞよろしくお願い申し上げます。



自然の面白さを伝える啓蒙普及活動は、私たちの生活を豊かにするのにとても大事なのですが、受験でおわれる学校や就活で忙しい大学では難しく、博物館でなければできないといってよいでしょう。そのために野外観察会や標本づくりなどいろいろな企画を展開するのですが、それには友の会の皆さん協力が不可欠で、それは年々博物館を支える大きな力となっております。深く感謝する次第です。

昨年度のおわりに、地球生命史の常設展示のラベルと写真をやっと更新することができました。でも、神奈川県立の自然史展示についてはまだで、これからの課題として残っております。なお1階展示室だけ「展示音声ガイド」が利用できるようになりました。自分の携帯電話やスマートフォンを使って聞くことができ、解説を日本語と英語の文字でも見ることができます。

もっとも大きな問題が、シアターの映像投影装置の老朽化で、長いこと来館者の皆様にご迷惑をおかけしてきました。今年度に入ってその不具合を修復することになり、現在作業が進行中です。おそらく夏場からはもとのように映像を再開することができそうです。新たに作成した箱根の映像も紹介することができそうです。

今年の特別展は「魚類図鑑に生涯を捧げたDANDY～益田一と日本の魚類学～」と題するもので、7月20日（土）のオープンを目指して準備が進められています。益田さん（1921～2005）は、相模湾を拠点としてダイビングや水中写真を通して魚類の研究に大きな貢献をなされた方で、皆さんの活動のなかでもきっと話題になるものと思います。関連して楽しい行事も計画されておりますので、ぜひ期待しててください。

◆ 活 ◆ 動 ◆ 報 ◆ 告 ◆

地話
懇話会

『相模湾沿岸でみとめられた津波堆積物』

2013年1月23日(水)／博物館講義室／20名／講師：
神奈川県温泉地学研究所 金 幸隆研究員

現在三浦半島を中心に相模湾奥の鎌倉、相模湾に面する小網代湾、将来は外洋に面している毘沙門で調査したいとの事であった。津波堆積物は簡単に見つか



(温地研)金幸隆研究員による懇話会風景

るものではなく、浅瀬の海岸が一番可能性の高い、とのこと。現在一番調査が進んでいるのは小網代湾で、その結果三層の津波堆積物が確認され、大正関東地震と元禄地震、もう一つはその前の相模トラフの地震であるらしく、鎌倉時代の1293年の死者2万人の地震を想定しているようであるようだ。

現在大正、元禄地震しか知られていないが、その前の地震について知る手掛かりが得られたようで相模トラフの地震がより鮮明になり、防災上大きな期待ができると思う。また多くの犠牲者を出した石巻の大川小のことも話題になり、この地区は、理論では隆起する筈が、逆に沈降し被害が大きくなったことから、その都度実証性の必要性を強く感じた。

現在温地研では関東大震災の体験者の聞き取り調査をしているとの事。東日本大地震では、私の住んでいる鶴巻温泉でも1m位地盤沈下した所もあり、11階建ての私のマンションでも外壁のタイルの浮き、棟と棟の間のジョイントの破損(揺れが大きく壊れた)等の被害が発生した。もし相模トラフで大きな地震があればその被害はさらに大きいものと想像される。地震の現地調査には苦労が伴うものと思いますが温泉地学研究所の皆さんの今後の研究に期待すると同時にご健闘をお祈りします。(藤江 晋)



『地図を楽しもう』

2013年2月3日(日)／博物館周辺／9名／講師：新井田秀一学芸員

この講座も7回目の開催になりました。フィールドワークのさい地図は重要な情報源です。これを読めるようになるための入門編として続けております。

午前中は新井田さんお手製のテキストを使って、地図の種類としくみについてや、国土地理院地形図「2万5千分の1



箱根湯本温泉の源泉地

箱根」から読み取れる情報について学びました。

午後はこの地形図をもってフィールドワークです。博物館を出て国道1号線からつり橋の前田橋で早川を渡り、三枚橋発電所から箱根新道をくぐり三枚橋。箱根町役場から神明社、早雲寺。温泉街の須雲川を渡り日本水力発電発祥の地石碑、箱根湯本温泉の源泉井戸と熊野神社。土木学会推奨土木遺産の朝日橋で早川を渡り、小田原馬車鉄道の湯本駅跡へ。ここで解散です。余力のある人は塔ノ沢駅へ。荻窪堰取水口や土木学会推奨土木遺産の函嶺洞門を観察しました。地図と実際を照らし合わせながらの街歩きはなるほどと思わせ、新井田さんとのおしゃべりも楽しく大変満足しました、と参加者からの言葉がありました。(関口康弘)

第104回
サロン・ド・
小田原

『みんなで残す自然史資料』

2013年2月16日(土)／地球博物館講義室／(講演)
参加者34名、第2部(交流会)参加者23名／講師：加藤ゆき学芸員

今回は現在開催中の企画展「博物館の標本工房」の企画・展示担当学芸員、加藤ゆきさんにお話をいただ



講演の様子

きました。博物館の使命に、資料収集・保存、調査・研究、企画・展示、普及・教育があります。今回の企画展はこの資料収集・保存について皆さんにわかりやすく知っていただこうと企画されたそうです。

第1部のお話は、なぜ、自然史資料(いわゆる標本)を残さねばならないのかからはじまり、標本の活用法や標本の作製方法、収集方針が紹介されました。後半の話題は今回の企画展に関してです。コンセプトは、様々な形態の標本を展示する、タヌキやカラスなど普通種も展示する、標本作製から収蔵ま

での過程を紹介する、気軽に見ることができる内容にする、意外性を取り込む、来館者にも展示に参加をしていただく、標本の持つ意義を理解していただく、準備状況を公開する、です。体験活動も重視し、富山市博から借用したオオギハクジラの骨格標本を組み立てる工房を博物館講座にて行いました。これは大好評でした。

話題の最後に、手作り感満点の当企画展にかかわったすべての方々を紹介されました。気遣いのあふれる加藤さんらしい締めくり方でした。(関口康弘)

よろず
スタジオ

『動物の足あとであそぼう』

2013年2月17日(日)／博物館講義室／93名／講師：
広谷浩子学芸員

いろいろな動物の足型やフットマットを用意し、動物の足跡と名前を線で結ぶクイズ、足型を押すフットスタンプ、動物の歩き跡をなぞるフットマットの3コーナーを準備しました。用意した足型はニホンザル、アライグマ、タヌキ、エミュー、カンガルー、ライオンなど。自分の手足を足跡に合わせて動物の歩き方を体験するものは、ニホンザル、ウサギ、カモシカ、クマの4種の足跡でした。入口にもフットマットを敷き、それを伝って講義室へと導くようにし、入室後はクイズ～スタンプ～歩き方をまねるという流れにしました。スタンプ・マット共に人気があり、何度も繰り返して挑戦する子どもも多くいました。



足あとスタンプ 絵具をこうつけて



うさぎの歩き方はこうだね

(金子直子)

<子どもたちの感想>スタンプが楽しかった。(小1女 小2女 小4男)／足あとマットが面白かった。(小1男)／うさぎの足あとをまねたが跳び箱みたいで面白かった(小4女)／割合簡単に出来たが、面白かった。(小5男)



『川崎市生田緑地で多摩丘陵の地形・地質を観察する』

2013年2月23日(土)／生田緑地／33名／講師：笠間友博学芸員

快晴で風も弱いハイキング日和。小公園で注意事

項説明後、最初に観たのが崖斜面に露出する上総層群飯室層。陸に近い浅い海に堆積した泥岩層で、溝口方面に向斜軸があるため南東に傾いているとの説明。



川崎市生田緑地巡検路で観られる各種堆積露頭

少し移動して崖面で火山灰層を観察。箱根火山よりはるかに古い100万年以上前の火山灰で、どの火山のものかは不明とのこと。飯室山を登り、頂上の展望台から武蔵野台地を遠望。

建物でわかりにくいが多摩川左岸の河岸段丘の様子を見る。その向こうにはスカイツリー。下部が武蔵野台地に「埋もれて」見えるのは、スカイツリーが台地の向こうの低地に位置しているからだという。杣形山に移動し、山頂の展望施設から頂部が平らな多摩丘陵を見る。かつての海岸平野が隆起して丘陵に。山を下りながら、上から関東ローム層、ローム層中の軽石層(黒雲母成分からハヶ岳起源とのこと)、オシ沼層(30万年前の温暖化で浅い海に砂やレキが堆積)、飯室層などを順々に観察。

昼食後に青少年科学館を見学し、最後に世界最高といわれるプラネタリウムを楽しんだ。講師の笠間学芸員から詳しい説明をいただき、学ぶことの多い充実した地形観察会であった。(大貫繁男)

地話
懇話会

『パタゴニア漫遊記』

2013年2月27日(水)／博物館講義室／19名／講師：
平田大二学芸部長

平田さんは2000年1月から2011年3月までの間に7回、南米パタゴニアの地質調査に行かれ、その報告を「パタゴニア漫遊記」というテーマで聞く機会に恵まれました。本人は安山岩主体のアンデス山脈を歩き、またアルゼンチン側の大平原を歩き火山や溶岩台地を見、山にも登り調査されたとのこと。私にはこのパタゴニアの大地は、風の強い人の住めない所ではあるが、冒険的な旅を求める人なら素晴らしい所…程度の認識しかありませんでした。しかし、写真を使っの具体的な説明を聞き、富士山のような山がいくつもある? 所々に出現するという平坦な溶岩大地がなぜ形成されたのか? パタゴニアの地質学的歴史は? 等々、次から次へと新たな疑問と興味が湧いてきて楽しいひとときを過ごすことができました。

また、今年の冬には「パタゴニアに関する企画展!!」をやりたい、と言われていましたので今から楽しみにしています。(坂本安正)

植物
観察会

『早春の里山を歩く』

2013年3月2日(土)／二宮町吾妻山／43名／講師：勝山輝男学芸員

3月2日(土)天候晴れでJR二宮駅に集合しました。40名程の大人数です。吾妻山は昨年8月の六本松までのハイキング、今年2月の菜の花見学に続き3度目です。眺望の良い好きな山です。

勝山先生の解説は昨年夏の箱根旧街道ーケンペルの道に続き2度目、いつも親切ですね。フラサバソウは初めてこんな物と判り、フランシェ・サバチェの名前から命名と聞き、判り易く納得しました。万年橋から川沿いに上がる際に櫟(ケヤキ)は湿った肥沃な土壤が好みと聞き、昔我が家の庭に植えたケヤキを思い出しました。ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリも見えて納得です。神社が右に見える用水横から上って行く際は足元が滑り、思わず手を付き、持ちこたえました。シダ類の説明を伺い、子持ちシダが表面に子孫を付けている様子には「しぶとさ」を感じました。

午後の吾妻神社境内で河津桜の説明を聞き、「今年は去年よりは早い。気温は寒い筈なのに、晴れ日が多いせいかな？」と考えてみました。最後のロゼットクイズは自分にはタンポポ？ぐらいにしか見えず、皆さんの博識に思わず拍手しました。普段の土曜日はスポーツジムで運動ですが、違った刺激を頂き、有難うございました。(赤木康雄)



吾妻神社でカワツザクラの説明を聞く



ロゼットクイズ「オニタビラコ」

地話
懇話会

◆友の会地学G

『地震データからみる箱根火山の地殻構造』

2013年3月27日(水)／博物館講義室／参加者19名／講師：(温地研)行竹洋平研究員

地下を伝わってくる地震波の震源から計測器までの速度変化を、速度トモグラフィー法で画像化し、地殻構造を推測するお話でした。専門的な質問が多数出されました。地下構造物の密度の大小で、地震

波の速度は高速度・低速度に変化し、地下の低温・高温が推測され、寒色から暖色で表されます。画像から駒ヶ岳下6km以浅に固結した溶岩、深さ7～16kmに熱水、さらに深下に密度の高い部分、また箱根火山から丹沢下に向かって楔状にトラフ充填物、丹沢下に足柄層群の存在が推測されるそうです。箱根火山はブロック状の高重力異常地帯で基盤岩に固いものがあるそうです。今回の懇話会では、地下や地上、あるいは上空から多くの方法で地殻構造の研究が進められていることを知ることができました。(加藤美佐子)



地話懇話会風景…(温地研)行竹洋平研究員

地話
懇話会

◆友の会地学G

『オマーン漫遊記』

2013年4月24日(水)／博物館講義室／参加者27人／講師：山下浩之学芸員

山underline学芸員の『オマーン国：アラビア半島東端』での「ジオプランニングツアー」体験報告を聴くことができました。

私など「箱根ジオパーク」のにわか知識しかなく、画面を見て化石とか枕状溶岩ぐらいいは解りましたが、中東の地質・地層・地形など専門的なものはまるで解りませんでした。本人が重たい思いをされて持ち帰られた岩石の中で、日本の国内では見られないような珍しい岩石は一見の価値がありました。地層がはっきりわかる美しいほどの縞模様(層序)の石や、黄色の豆状の石などみて、“これが何万年、何億年もの間、自然界で形成されたものなのか”と、感動いたしました。

また、滞在中のホテルも中東にしては意外と設備がよいこと、現地の食文化も楽しんでいらしたようで、我々の単なる観光旅行とは違った、中身のある「体験報告」に感動しました。有難うございました。(貴田スミ子)

総会
イベント

2013年度友の会

『身近なジオパーク自然観察会』

2013年4月14日(日)／コース：博物館～一夜城～早川～風祭／21名／講師：勝山学芸員 笠間学芸員 田口学芸員 渡辺学芸員

総会後の恒例イベント、学芸員の先生方と歩く観察会は今年は全員で石垣山を目指しました。さわやかな春風と暖かな日差しの中、入生田の地形や出会

った植物について、また寄生蜂についての説明を聞きながら2時間40分かけて一夜城へ。この辺は幾度となく土石流が谷を流れたそうで、その中に横縞模様の板状節理の岩が所々に転がっている。その板状節理の破片を積み上げて畑の石垣に利用しているのが印象的でした。山笑うという言葉がぴったりの雑木の芽吹き、クワやコクサギ、クヌギなどの雄花雌花の観察、淡い緑、くっきりした緑、遠くの赤っぽく見える樹は何?などわいわい言いながらふと見上げるとウワミズザクラが満開。思わず歓声をあげみんなで見とれていました。



板状節理の発達した岩(転石)と板状の石を利用した石垣



ウワミズザクラが満開

一夜城の展望台から大磯丘陵を眺め、フィリピンプレート、北米プレート、ユーラシアプレートなどの説明を聞き、ここでは地球規模で地形を考えました。ここで観察会は終了。夜の懇親会参加者は早川から風祭へ。私たち数名は一夜城から小田原観光回遊バス(200円)に乗って小田原へ向かいました。

(浜岡史子)

よろず
スタジオ

『貝で遊ぼう』

2013年4月21日(日)／博物館講義室／199名／講師：佐藤武宏学芸員

今回の「貝で遊ぼう」は、巻貝はどんなものかを学びました。標本を触りながら佐藤学芸員の解説を聞き、殻を削って中が見えるようになっている標本や、真ん中から切断してある標本で、貝殻の中にある螺旋構造を確認しました。外から見



初めに佐藤学芸員のお話を聞きます



体が左右対称でない

ると巻貝のように、中から螺旋スロープが出てきた時には、大人からも子どもからも「わ～」と声が上がりました。螺旋形はとてもきれいで見事でしたから。

解説の後には、お馴染みの貝合わせコーナーと新登場の貝細工コーナーで遊びました。貝細工コーナーでは、首飾りを作ったり、ホタテの貝殻の上に小さい巻貝を接着剤でつけて置物を作るもので、大人も熱心に取り組みました。

日本にいる巻貝は7500種もあるとか、貝もいろいろな場所でそれぞれの生き方をしているのを再認識しました。(赤堀千里)

<参加者の感想> 知らなかったことを教わってよかった、貝の中に渦巻きがあってびっくりした。

(小5女) / 似てるけどそれぞれ違う形をしているのを発見した(小5女) / 初めて見た貝がたくさんあった / 楽しかった、貝合わせは難しくなかった(小4女) / 貝合わせはトランプと違って、合うかどうか試してみるのがいい。(小2男)

植物
観察会

『三つ峠にスマレを訪ねる』

2013年4月26日(金)／三つ峠山麓・朝霧高原／34名／講師：勝山輝男学芸員

バスを使って山梨県三つ峠山麓にスマレを訪ねた。勝山先生によるスマレの話や生えていたスゲの仲間、植栽されたオオヤマザクラや自然分布のカスミザクラ、ヤマザクラなどの分類上のポイント、神奈川県と山梨県とのスプリングエフェラル植物の分布上の違いなどの講義を受けた。



レンブクソウの観察



エイザンスミレ

帰りには朝霧高原の道の駅に寄り、キスマレやニオイタツボスミレなどのスマレを観察して帰路につく。

スマレ類の開花が1～2週間、早いと言われ心配したが、目的のイブキスマレの花も見られ、観察したスマレはエイザンスミレ、ゲンジスミレ、アケボノスミレなど全部で17種、スゲはイトアオスゲやノゲユカスゲなど8種を観察した。(山田隆彦)



わたしの選ぶ“この一冊”



『松村松年自伝』



松村松年博士
(昭和29年)

松村松年 著 (社) 造形美術協会出版局 (1960)

学芸員 渡辺 恭平

松村松年 (まつむら しょうねん) (1872~1960) をご存じでしょうか? 北海道大学に昆虫学の研究室を設立し、日本の昆虫学を欧米の近代的な手法に準拠させ、数千にもわたる昆虫に命名しました。

博士の仕事は意外に私たちの生活にも関係があります。例えば、虫の和名 (カブトムシなど) は明治時代の中ごろまで各地で様々な名称がありましたが、博士によって統一されました。私たちの使う虫の名前は、松村博士によって土台が作られたのです。また、写真技術が発達していなかった時代に図を用いた日本語による入門書を数多く著し、昆虫図鑑のベースを作った人でもあります。

『松村松年自伝』はそんな偉大な学者の幼少時代からの記憶を綴ったもので、歴史的にも重要な本です。この本、とても珍しい本らしく、いままで私が見たものは当博物館にあるものを含めてたったの2冊です。私は昆虫が好きですが、同じように昆虫学者にも興味があり、戦国武将について調べる人のように、昆虫学者の生い立ちや人生、仕事について調べています。その中で、特に面白い本書を紹介します。

先に虫の名前を統一した、と書きましたが、この時代の大学の先生はとにかく偉く、現在では考えられないような権力を持っていたようです。実際に、博士自身がとにかく負けず嫌いで実力に裏打ちされた自信に満ちていたことを各方面の昆虫学者 (教え

子たち) がこっそり書き残しています。

そんなとても偉い先生ですが、子どものころは昆虫採集に夢中で、素行が不良な腕白小僧であったようで、後も含め7回 (!) の留年や停学処分など、信じられないような幼少時代であったようです。自伝中にはこれらの記述に加え、ケンカが一番強いとか、誰を泣かしたといった話題が随所に出てきます。

その後、家族、特に母親の苦勞と愛情を知り、少年時代の松村は勉学に励み、明治21年 (1888) 札幌農学校 (北海道大学の前身) に入学し、蛭雪庵という合宿所 (今でいう寮) に入り極貧学生生活をおくりながら勉学に励みます。が、腕白は健在で、腕相撲に明け暮れていた話など、とても将来学者になる人とは思えないようなことばかり書いてあります。一方で、食料が足りない時に雀を吹き矢で撃ち殺して照り焼きにしたり、魚を釣って夕飯にしたことや、食事でケンカすることを防ぐために学生たちで自主的なルールを決めたことなど、明治時代の貧乏学生の苦勞話も鮮やかに描かれています。

こんな一学生を大学の教員 (助教授) にしたのは、意外なことに旧5000円札に描かれていた新渡戸稲造博士でした。上には上がいるもので、通常自信にあふれた松村博士の文章も新渡戸稲造博士の箇所だけは (珍しく) 低姿勢な文書であることに驚かされます。

欧米の水準を目指し研究していた松村博士は、当然海外に調査に行きました。当時は今と違ってインターネットやテレビ、飛行機もない時代です。情報が少なく、長い船旅を伴う欧米旅行は肉体的・精神的にも生半可な旅ではないことが容易に伺えます。自伝には、博士を待ち受ける数々の困難が書き記してあるわけですが、それを持ち前の度胸と根性、驚異的な適応力で乗り越えていけたのも、幼少~学生時代の経験があったからではないかと感じました。最近とはにかくまじめに勉強を頑張る子どもが多いですが、案外子どもは子どもらしく外で遊び、腕白な幼少時代を過ごした方が後々生きる力に満ちた、面白い人間になるかもしれないと、この自伝を読んで感じました (留年7回はやりすぎですが…)

(余談) 昆虫とは関係ないですが、松村博士はベースボールが趣味で、北海道に近代的な野球のシステムを導入しました。野球の歴史に昆虫学者がかかわっている。意外ですね。

博物館周辺の身近な自然シリーズ (その 35)

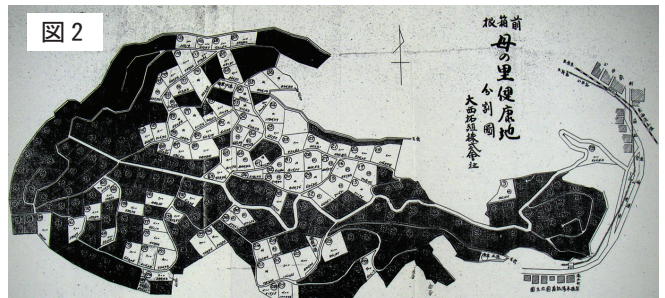
母の里健康地と入生田陣地跡

学芸員 勝山 輝男

「博物館周辺の身近な自然シリーズ」は2003年発行の「友の会通信」Vol. 7, No. 4 から連載が始まりました。その1では平田学芸部長（当時は企画普及課長）が「身近な」とはとらえ方によっていろいろな展開が考えられることを書かれています。その2は私が担当しました。「身近な」というと文字通り地理的に博物館の近くと考える方が多いと思い、「長興山自然探索ガイド」のタイトルで入生田や風祭方面の歩き方ガイドのようなものをVol. 7, No. 5 とVol. 7, No. 6 に書きました。それから10年がたち、本シリーズも35回をかぞえ、さまざまな切り口から博物館周辺の「身近な」自然が紹介されてきました。今回は原点にもどり、「長興山自然探索ガイド」に関連した話題を紹介します。

図1は博物館前庭広場から西方向の塔ノ峰方面を写したものです。塔ノ峰に発して入生田駅のあたりで早川に注ぐのが吾性沢です。吾性沢の流域はかつては長興山の寺領となっていたところで、博物館周辺ではもっとも自然がよく残されています。「長興山自然探索ガイド」でも主に吾性沢流域を取り上げました。この一帯が1940年（昭和15年）頃、母の里健康地として分譲されていたことはあまり知られていません。

私の手許に「前箱根 母の里健康地 分割図」なる図面のコピーがあります（図2）。折原さんの前任の菌類担当学芸員のDさんが、地元のUさんより戴いたものをコピーさせてもらったものです。「母の里」の名称は長興山の稲葉氏墓所に春日の局のお墓があることから名づけられたものです。黒と白に色分けされていますが、白い所には金額と思われる数字が入っているので、黒い所は売却済の区画と推察されます。観察会などでお弁当を食べる場所（通称お弁当広場）の手前の道路右側（下から見て）には石垣でひな壇が作られた跡が残されています。また、吾性沢沿いの山中や、山の上の方のこんな所と思うような場所に住宅があるのも分譲地の名残といえます。母の里健康地として売り出された当時からすでに70年以上がたち、現在は立派なスタジイの樹林



にまで回復したところもあります。

太平洋戦争の末期、本土決戦に備え、この付近の山中に旧日本軍の陣地が作られたこともすでにすっかり忘れ去られています。この陣地については戦時下の小田原地方を記録する会が発行した「戦争と民衆」という雑誌の40号（1998年）に「小田原地方における本土決戦」が特集され、入生田陣地のことが記録されています。入生田陣地は酒匂川河口付近に上陸する米軍を狙ったもので、横穴を掘り14cmの加農砲（カノン砲）を設置する予定だったそうです。陣地は工事途中で敗戦を迎え、実際に大砲が設置されることはなかったといえます。このような陣地は入生田のほか、石垣山、松永記念館の老櫓荘の裏山などに残っているそうです。

先日、久しぶりにこの入生田陣地を訪ねてみました。陣地は道には面していないので、多少はやぶこぎをしなければなりません。記憶をたどって藪をかきわけていくと、目の前にぽっかりと陣地の穴が開いていました（図3）。入口は2つに分かれ、右側の入口の方が大きく、中の傾斜が緩やかだったので、右側から入りました。洞窟の中は乾いていて、足場はしっかりとしています。入口から数mは見えますが、それより奥は懐中電灯がなければ歩くことはできません。10mほどで直角に右に曲がっています。ここから奥はまったくの闇になります。天井にコウモリが1匹ぶら下がっていました（図4）。懐中電灯を向けてもまったく動きません。外来研究員の山口喜盛さんが、『自然科学のとびら』16巻3号（2010）に「神奈川県のコウモリ」について書かれています。それを見るとコキクガシラコウモリのよ

うに思われました。

徒労に終わった入生田陣地の構築ですが、いまでは樹林や藪に覆われ、コウモリの隠れ家となって役にたっています。このような横穴は箱根火山の溶岩あるいは火砕流を貫通して掘られているので、地学系の観察場所として貴重な存在かもしれません。次の機会には笠間さんを案内して、そのあたりを聞いてみたいと思っています。



図3



図4

<情報クリップ>

- 会員数 464名 5月21日現在
(正会員463名、賛助会員1名)

- 平成25年4月 博物館人事異動
<管理課>

転入：阿部 雅明
新任：酒井 正伸・星野 進
転出：谷 康雄・菊地 俊太
退職：内田 秀樹・飯田 孝次

<企画情報部>

転入：岩崎 克彦(企画情報部長)
高橋 正彰・堀井かおり
新任：新山 直子・磯崎 和美・星野美和子
山崎 一法・当麻 進
転出：立石えり子・押野 裕・中島 勉
坂井 陽子
退職：新井 一政・神戸 正雄・小川 護
小坂井千夏・石原 明子・福尾 実
竹澤 美貴・柴田美奈子・菅 尚子
丹野 利子・加藤友里江
異動：田中 徳久(前学芸部)
大島 光春(前学芸部)
加藤 ゆき(前学芸部)

<学芸部>

新任：渡辺 恭平・松本 涼子
異動：山下 浩之(前企画普及課)
荻部 治紀(前情報資料課)
退職：川島 逸郎・熊谷 拓朗・佐野 真吾

行事案内

◆ 子ども自然科学ひろば

『箱根火山の火山灰を調べてみよう』

箱根火山が噴出した火山灰(テフラと呼ぶ)の中には色々な造岩鉱物(岩石を造っている鉱物)が含まれています。これらを洗って中に含まれる鉱物を顕微鏡で観察します。

日 時：8月2日(金) 午前10:00~12:00
午後13:00~15:00

場 所：博物館3階実習実験室

講 師：笠間友博学芸員

対 象：子どもとその保護者/オープン

参加費：無料

申込方法：事前申込み無し

(当日3階実習実験室で受け付けます)

連絡先：中村(良) 0463-83-4035

◆ 第106回 サロン・ド・小田原

『益田 一さんとの思い出と魚類図鑑』

話題提供者：瀬能 宏学芸員

日 時：8月3日(土) 受付16:20~

場 所：県立生命の星・地球博物館

講演：17:30~18:30(1階西側講義室)

交流会：18:40~20:00(3階レストラン・フォーレ)

参加費：講演のみの参加は無料です。

交流会参加は、大人1,000円

申込み：講演会は申込み不要です。

交流会に参加される方はFAX・ハガキで
友の会事務局までお申し込み下さい。

宛 先：友の会事務局 FAX：0465-23-8846

問合せ：田口 tagu@nh.kanagawa-museum.jp

特 記：詳細は館ホームページ等でご案内します。

◆ 第107回 サロン・ド・小田原『虫と「向き合う」』

話題提供者：川島逸郎氏(昆虫・生物画家)

日 時：9月28日(土) 受付16:20~

場所以降の項目は第106回と同様です。

◆ 子ども自然科学ひろば『いろいろ体験』

博物館実習実験室内でいろいろな体験講座を行います。当日希望の講座にご参加ください。

【プランクトン観察】

小田部家邦先生の指導で顕微鏡を使って観察します。

【変形菌を顕微鏡で観察】

いろいろな標本を観察してMy標本を作ったり、おみやげを作ります。

【自然のものでスタンプ遊びをしよう】

葉っぱや貝殻などを使い楽しくカードを作ります。

日 時：8月4日(日)

10:00~12:00、13:00~15:00

1講座1時間で各4回予定

場 所：博物館3階実習実験室

対 象：子どもとその保護者／オープン

参加費：1講座200円~400円程度／人

申込方法：事前申込み無し

(当日3階実習実験室で受け付けます)

◆ 子ども自然科学ひろば『植物おもしろ発見』

「森の工作 木と葉と実でつくってみよう」

日 時：8月14日(水) 13:00~16:00

場 所：博物館3階実習実験室

対 象：子ども(未就学児は保護者同伴)／オープン

定 員：一度に15人まで(出来た人から交代)

参加費：100円(保険その他)

申込方法：事前申込み無し(当日3階実習実験室で受け付けます) 先着順

持ち物：筆記用具

連絡先 森谷 0465-35-1520

*詳しくは同封のチラシをご覧ください。

◆ 子ども自然科学ひろば『よろずスタジオ』

「動物の足あとで遊ぼう」

これは誰の足あとかな。指や爪の形や肉球などからどんな歩き方をしているか予想できます。足跡を辿って足の運びや歩幅を体感してみよう。

日 時：9月15日(日) 13:00~15:00

場 所：博物館1階東側講義室

対 象：子ども(当日の来館者)／オープン

申込方法：不要、無料

◆ 『河原の石から神奈川の地質と成り立ちを探る』

河原の岩石を正しく分類・同定するとその川の流域一帯の地質や成り立ちが判断できます。今回は神奈川県を代表する4河川(早川、多摩川、相模川、酒匂川)について岩石の分類・同定方法を学ぶと共に、その地域の成り立ちを4回シリーズ(9月~11月)で探ります。

各河川の岩石の相違、特徴などを良く観察してもらうため全シリーズへの参加を原則とします。なお当初『2013(平成25)年度友の会行事一覧』でご案内した第3回の開催日(11月9日)は11月2日

(土)に変更されましたのでご注意ください。

講 師：蛭子貞二(友の会) 山下浩之学芸員

◎第1回

日 時：9月21日(土) 10:00~15:00

実施場所：

午前：博物館3階実習実験室

(事前勉強会：岩石の分類方法や同定方法などの基礎を学ぶ)

午後：早川(博物館周辺)…雨天時は実習実験室

◎第2回

日 時：10月12日(土) 10:00~15:00

実施場所：多摩川(川崎市多摩区中野島)

集合場所・時間：JR南武線「中野島駅」10:00

解散場所・時間：JR南武線「中野島駅」15:00

◎第3回

日 時：11月2日(土) 10:00~15:00

実施場所：相模川(厚木市厚木)

集合場所・時間：小田急線「厚木駅」10:00

解散場所・時間：小田急線「厚木駅」15:00

◎第4回

日 時：11月30日(土)

実施場所：酒匂川(松田町十文字橋周辺)

集合場所・時間：JR御殿場線「松田駅」10:00

解散場所・時間：JR御殿場線「松田駅」15:00

実施場所等については状況により変更があります。

対 象：大人と子ども30名(多数の場合抽選)

参 加 費：350円／人・回

注意事項：

・1回~4回の全シリーズセットでの参加申込みをお願いします。

・雨天時(開催地の降水確率 $\geq 40\%$ の場合)は博物館に集合して下さい。予め準備した現地の石を使用して分類・同定作業を行います。

締 切 り：9月10日(火) 必着 *チラシ無し

連 絡 先：中村(良) 0463-83-4035

◆ 樹木観察基礎講座 ③

「マメ亜科とジャケツイバラ亜科」

日 時：9月23日(月・祝) 13:00~16:00

場 所：横浜市こども植物園(横浜市南区六ツ川)

講 師：八田洋章先生(樹形研究会代表)

集 合：こども植物園研修室 12:45~受付開始

交 通：JR保土ヶ谷駅東口からバス、児童遊園地入り口下車、5分

締切り：9月9日(月) 必着

対 象：中学生以上25名(多数の場合抽選)／オープン
参加費：1,100円／人(友の会会員以外1,300円)
持ち物：筆記用具、ルーペ、ピンセット、飲み物
連絡先：深山 045-821-5184

◆ 『地話懇話会』～地学関連分野の話題を皆で
気軽に話し合う～ …第4水曜日／開催月

実施場所：博物館講義室

実施時間：15：00からの1～2時間

対 象：友の会会員(原則)の当日来館者
参 加 費：無料(原則)…但し内容により有料
申 込 み：不要

【9月の話題】

- ・9月25日(水)『三浦半島の東京軽石』
話題提供者：笠間友博学芸員
状況により話題(講座内容)等の変更が有ります。
連絡先：酒井明子 046-295-1399

◆ 植物観察会『箱根の秋を歩く』

二子山山麓の植物を楽しみましょう

日 時：9月27日(金) 9：00～15：00頃

「雨天中止」

場 所：「お玉ヶ池」～「精進池」芦の湯方面

集 合：箱根登山鉄道「箱根湯本駅」改札出口

解 散：芦の湯フラワーセンター

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：大人25名(多数の場合抽選)

参加費：1,500円(往路タクシー代を含む)

締切り：9月6日(金) 必着

連絡先：山本 0463-71-3835 (19：00以降)

※ 池の水量により行き先を芦の湖東岸に変更あり。

※ 詳細は返信はがきにてお知らせします。

◆ 『昆虫の細密画を描こう』

昨年博物館で実施した講座を友の会講座としてチャレンジすることになりました。

日 時：10月13日・20日(日)の2日間

10：00～15：00(予定)

場 所：博物館3階実習実験室

講 師：川島逸郎氏(昆虫・生物画家)

対 象：友の会会員大人15名

参加費：500円／人

持ち物：詳細は返信はがきで案内します。

締切り：10月1日

連絡先：星野和子 0465-34-3834 (19：00以降)

*詳しくは同封のチラシをご覧ください。

◆ 植物観察会『里山ウォッチング』

秋たけなわの渋沢丘陵を歩きます。頭高山は丘陵西南部にある標高303メートルの小高い山です。キク科をはじめとする秋の草花や雑木林の樹木を楽しみましょう。

日 時：10月19日(土) 9：30～15：00頃 雨天中止

場 所：秦野市・頭高山方面

集合・解散：小田急線渋沢駅

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：子どもから大人まで25名

(多数の場合抽選)

小学4年生以下は保護者同伴

参加費：300円／人

締切り：9月27日(金) 必着

連絡先：田畑 0463-78-8014 (18：00以降)

※ 詳細は返信はがきにてお知らせいたします。

博物館友の会主催各行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでは受け付けませんので、ご注意ください。
行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢(学年)／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項、ご不明な点は、友の会事務局へお問合せください。

注意！

★参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

★オープンの行事は会員外の方も参加できます(参加費が会員とは変わる場合があります)。

★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

★チラシの発行されない行事もありますので、直接〈連絡先〉へお問い合わせください。

★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

「友の会通信」第81号は、2013年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.17, No.1, 通巻80号 2013.6.15発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL:0465-21-1515 FAX:0465-23-8846